

やまがたの未来を創る県立高校の将来の在り方について ～生徒が輝く学びを地域とともに～ 報告書 【 概要版 】

令和7年2月 県立高校の将来の在り方検討委員会

I 検討の概要

県立高校の将来の在り方検討委員会は、令和6年1月12日、県教育長から検討の依頼を受け、少子化や社会経済のグローバル化など、社会の変化に対応した県立高校の将来の在り方について、様々な立場から多角的に議論を重ねてきた。中学生、高校生、保護者、教員合わせて約31,000人を対象とした高校教育に関する意識調査、産業関係者、1学年当たり2学級の小規模校が所在する市町村の首長や教育長、私立高校関係者などを対象とした意見聴取を実施し、いただいた意見を参考にしながら議論を深め、国が進める教育改革にも注視しながら、このたび、県立高校の今後10年間のあるべき姿を「報告書」として取りまとめた。

教育委員会はこの「報告書」の趣旨を踏まえて次期県立高校再編整備基本計画（仮）を策定し、次代を担う生徒が輝く教育環境が整備されることを期待する。

II 今後の高校教育に求められるもの

1 全ての生徒の可能性を引き出す教育

- ◇ 基礎的・基本的な学力の定着に向けた、生徒一人ひとりに適した学びの実現
- ◇ 主体的かつ協働的な学びを実践する探究型学習の充実
- ◇ 多様化・複雑化する生徒の実態と学びのニーズに対応した教育の充実

2 地域を支える人づくり

- ◇ 自分の将来に夢を持ち、社会的・職業的自立を図るためのキャリア教育の充実
- ◇ 社会を生き抜く実践的な知識や技能の習得に繋がる、地域と協働した教育の推進
- ◇ 持続可能で活力ある地域社会を支える、地域の産業人材を育成する教育の推進

3 新しい時代への対応

- ◇ 最先端のAIやデータサイエンスなどを含む新たな学びの創設や、高度なデジタルスキルを備えた人材の育成に向けた教育DXの推進
- ◇ 多文化共生社会の中で活躍できる人材の育成等に向けたグローバル教育の推進
- ◇ 生徒の適性や能力、興味・関心を踏まえた学びを可能とする、柔軟な普通科教育の推進

4 魅力ある学校づくり

- ◇ 教育活動の重点や育成を目指す人物像の明確化と、その着実な実行による、学校の魅力化・特色化の推進及び効果的な情報発信
- ◇ 学校教育施設・設備の更新や充実、サポート体制の充実等による、安全安心で快適な学習環境の整備
- ◇ 教職員がワーク・ライフ・バランスを保ちながら、安心して働き、研鑽を積み、力を発揮できる環境づくり

Ⅲ 県立高校の将来の在り方

1 県立高校の将来を考える上での視点

- (1) 今後も少子化傾向は続き、10年間で中学校卒業者が約2,000人程度減少すると見込まれているが、それをマイナスとだけ捉えるのではなく、全ての生徒の可能性を引き出すための教育の質と学びの多様性の確保に向けた高校の在り方を模索する契機とする必要がある。
- (2) 地域に開かれた教育課程を推進し、地域資源を活用した学びの提供や、生徒が実社会での学びを体験できる環境を整え、地域を支える人づくりを実現することが重要である。
- (3) AIやIoT等のデジタル技術の進展や多文化共生社会に対応した新しい学びを創設するなど、時代のニーズに対応した教育を強化することが望まれる。
- (4) 教育活動の重点や育成を目指す人物像を明確にした特色化と、生徒の学ぶ環境や教職員の働く環境の整備に努めるとともに、その魅力を、中学生・保護者や地域社会に対し、しっかりと周知することが求められる。

2 県立高校の在り方に関する基本的な方向性

- (1) 普通科系学科^{*1}、産業系学科^{*2}、総合学科を県内4学区（東、西、南、北）にバランス良く配置し、各地区の多様な学びの場を保障することが求められる。
- (2) 開設科目の多さや、学校行事、部活動の充実を図ることのできる一定の規模の学校を配置する一方で、小規模な学校を望む生徒の声にも配慮する必要がある。
- (3) 生徒個々の習熟度に応じ、自分のペースで学べる環境を重視することが望ましい。
- (4) 自治体に唯一所在する県立高校については、地域コミュニティの拠点の一つとして重要な役割も備えていることを踏まえ、生徒数を基準に画一的に再編対象とするのではなく、柔軟に判断することも必要である。

3 各学科の配置に関する方向性及び求められる教育

(1) 普通科系学科

- ◇ 大学進学に向けた指導体制を確保できる規模の学校を、8地区ごとに少なくとも1校配置することが望ましい。
- ◇ 社会・経済情勢の変化や生徒の興味・関心、将来の進路等に応じた新たな学科やコース等の設置の検討が求められる。

(2) 産業系学科

- ◇ 農業・工業・商業の学びについては、4学区（東・西・南・北）全てに配置することが望ましい。
- ◇ 産業の多様な分野の学びを維持するとともにその充実を図るため、定員の柔軟な設定が必要である。

(3) 総合学科

- ◇ 4学区全てに、1校は配置することが望ましい。
- ◇ 総合学科の特長を生かし、進路に応じた系列や多くの選択科目によりキャリア教育を推進することが望ましい。

なお、さらなる少子化等により再編統合を検討する場合は、少子化の状況や地域の実情を踏まえ、同一の学科間はもとより、異なる学科間の再編統合も視野に入れる必要がある。

4 学校・学科の特色化・魅力化に向けた方向性

(1) 普通科系学科

- ◇ 社会・経済情勢の変化や生徒の興味・関心、将来の進路等に応じた特色・魅力ある柔軟な普通科教育を実践するため、新しい学科やコース等の検討が求められる。
- ◇ 探究科・探究コースでは、探究型学習のパイロット校として、発展的な学習と課題研究に取り組むことが求められる。

(2) 産業系学科

- ◇ 産業構造の変化やデジタル化による技術革新、グローバル化等の産業界の急激な変化に対応するため、企業や大学等の高等教育機関等と連携した質の高い専門学習により、地域産業のイノベーションを担う人材育成が必要である。
- ◇ 複数の産業系学科を設置した総合選択制高校については、学科の枠を越えた専門の学習を通して、起業家精神の醸成を図ることが期待される。

(3) 総合学科

- ◇ 多様な分野について学べる柔軟なカリキュラムのもと、生徒が自身の進路に応じ、自己の学びをデザインできる「主体的な学び」を推進することが求められる。
- ◇ 総合学科の特長である多様な授業の開設や複数の系列設定ができるよう、学校の規模にも留意する必要がある。

(4) 中高一貫教育校

- ◇ 併設型中高一貫教育校の今後の設置については、モデル校2校を参考に、地域の意見を踏まえながら検討していく必要がある。

(5) 定時制・通信制

- ◇ 学び直しや進路変更した生徒の再スタートの場ともなっている現状を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズを支える教育環境の充実が求められる。

(6) 小規模校

①ハイブリッド型の授業など学校間の連携強化

- ◇ 従来の対面授業と遠隔授業を併用したハイブリッド型の授業の推進や、学校行事・生徒会活動・部活動・ボランティア活動等の合同での実施、オンラインによる交流など、学校間の連携を強化することによる教育活動の充実が求められる。

②地域との連携強化

- ◇ 小規模校の特長である地域との関係性を生かし、地域の資源や人材を活用したキャリア教育や探究型学習等の学びを充実することが期待される。

③県外生の受入れ推進

- ◇ 多様な価値観を持つ生徒の交流が、教育面の効果はもとより、地域の活性化に繋がっていることから、今後も地域からの支援や協力のもと、県外生の受入れを進めることが望ましい。

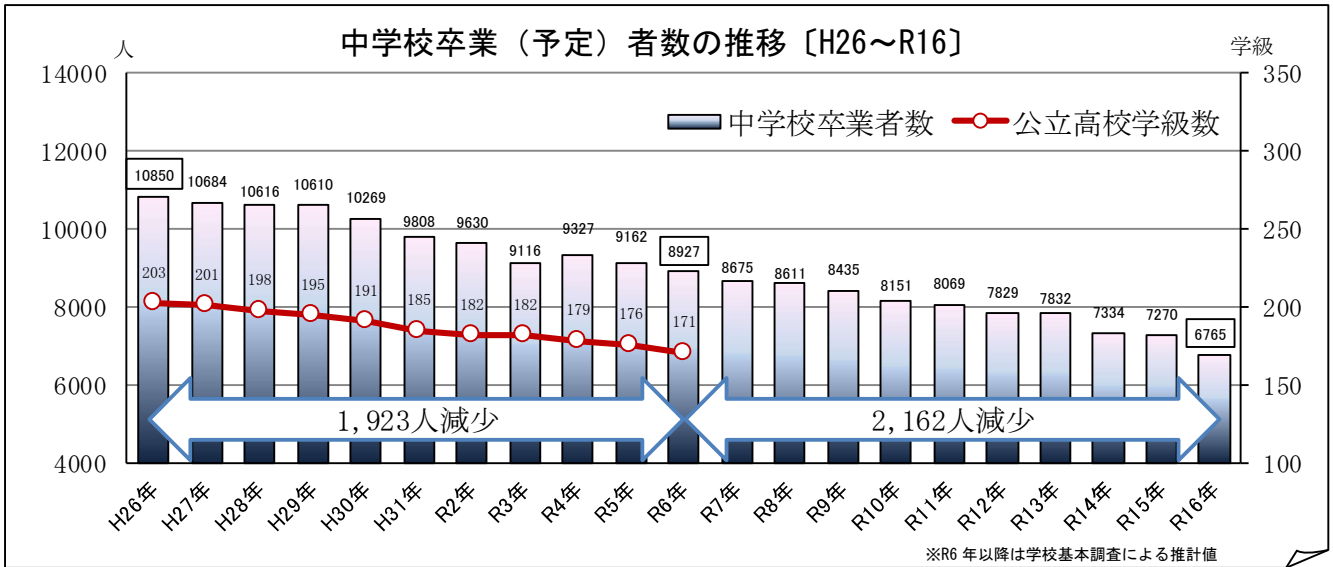
5 県立高校の設置に関する各地区の方向性

- ◇ 本報告書では今後10年間の県立高校の基本的な方向性を示したが、少子化の状況や高校教育に係る課題は各地区で異なることから、県立高校の設置に関する具体的な検討については、それぞれの地区ごとに丁寧に進めることが求められる。

※1 普通科系学科：普通科及び普通科系の専門学科（理数・探究・体育・音楽）

※2 産業系学科：職業に関する専門学科（農業・工業・商業・水産・家庭（福祉）・看護・情報）

IV 参考資料



公立高校（全日制）の学科別学級数〔学科別構成比〕

学科	普通	普通系専門					職業系専門							総合	計
		理数	国際	体育	音楽	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報			
R6	80 48.8%	6 3.7%	3 1.8%	2 1.2%	1 0.6%	9 5.5%	28 17.1%	14 8.5%	1 0.6%	2 1.2%	1 0.6%	1 0.6%	16 9.8%	164	
全国	64.0%	1.2%	0.7%	0.4%	0.4%	4.1%	10.0%	7.3%	0.5%	1.2%	0.2%	0.1%	7.6%	100%	
H26	102 52.0%	3 1.5%	0 0.0%	2 1.0%	1 0.5%	11 5.6%	32 16.3%	16 8.2%	2 1.0%	2 1.0%	1 0.5%	1 0.5%	23 11.7%	196	
全国	65.5%	1.1%	0.4%	0.4%	0.3%	4.0%	9.7%	7.7%	0.5%	1.1%	0.2%	0.1%	7.1%	100%	
比較	▲22	3	3	0	0	▲2	▲4	▲2	▲1	0	0	0	▲7	▲32	

※比較は R6 年度と H26 年度の比較

